

# 伝説



## 出陣式

とき 8月16日(日)午後3時10分から  
 ところ 三嶋大社舞殿前  
 行列出発 午後4時5分  
 行列行程 大鳥居前→中央町・本町・広  
 小路→笑栄通り→広瀬通り→芝本町→  
 一番町→三島駅→楽寿園北口

# 頼朝公旗拳げ行列

聞きました

## 三島夏まつり実行委員会 小島 信之さん

平成11年ごろから頼朝公役を芸能人をお願いするのが通例となり、県内外から見に来る人が増えました。三島を知ってもらおうきっかけにしてみたいと思います。

多くの人が芸能人を見に来るのですが、あまり知られていない間近で見られる穴場スポットがあるんです。ぜひ行列のルート散歩して、探してみてくださいね。

歴代頼朝公役一覧 (最新10年)	
平成17年	宇梶剛士さん
平成18年	照英さん
平成19年	沢村一樹さん
平成20年	石田純一さん
平成21年	勝俣州和さん
平成22年	半田健人さん
平成23年	風間トオルさん
平成24年	柳沢慎吾さん
平成25年	神保悟志さん
平成26年	永井大さん

## 出陣式も迫力あり

出陣式では味方の士気を鼓舞する「ときの声」を挙げます。参加者全員で発声するので、大迫力です。その際、声を長く伸ばすのは「遠くまで三島の声が届くように」との思いが込められています。



今年の頼朝公役 寛利夫さん

**ま**つりの3日間でも、市内外から注目を集める2日目。

その理由は市民参加型の頼朝公旗拳げ行列と、頼朝公に扮する豪華なゲストです。

見て、楽しんで、素敵な夏の思い出をつくりませんか。

## 郷土発展の想いを形に

頼朝公旗拳げ行列は昭和30年代に始まりました。

これは800年余り昔、蛭ヶ小島(伊豆の国市)に流されていた源頼朝が、三嶋大社に源氏再興を祈願し、百日参りの最終日、治承4年(1185年)8月17日に旗拳げし、山木判官兼隆を破り、鎌倉幕府を開くスタートを切ったという故事を再現しています。この行列には、三島の郷土発展を念願する熱い思いが込められています。

**今**年で41回目となる手筒花火は、夏まつりの迫力あるイベントの一つとして、多くの人が見物に訪れます。

手筒花火はモウソウ竹に荒縄を巻き付け、黒色火薬に鉄粉を混ぜて竹筒の中に入れ、打ち上げ者が筒をわきに抱えながら噴煙させる花火です。

### 伝統の打ち上げ花火

手筒花火が行われる前は、三嶋大社境内で、打ち上げ花火が行われていました。

「野末なる 三島の町の あげ花火 月夜の空に 散りて消ゆなり (山櫻の歌：大正12年)」と若山牧水が詠んだように、古くから行われ、三嶋大社は夏まつりの中心としてにぎわっていました。

### 新たな伝統、手筒花火へ

この打ち上げ花火は、長い伝統があり、市民の誇りでした。しかし、火災予防の観点から境内での開催は中止となりました。

「花火がまつりになくは三島のまちとしてさみしい」という声から、昭和50年に打ち上げ花火の代わりとして手筒花火が始まりました。それ以来、手筒花火は夏まつりの中日を華やかに彩り、新たな伝統となっています。



聞きました

三嶋大社権禰宜  
北山和裕さん

手筒花火が多くの人に親しまれていることを嬉しく思っています。できる限りこの行事を続け、発展させていきたいと考えています。

手筒花火は危険を伴うため、打ち上げ者は、自分で作った花火しか、打ち上げることができません。その美しさに見入るのはもちろん、手製の花火を仕込んだ筒を勇ましく担ぎ、打ち上げる演者にも注目してみてください。



# 手筒花火

手筒花火は見ている人を魅了します。夜空にあがる鮮やかな火柱の美しさ。噴煙が8mにもなる花火を勇敢に打ち上げる演者など…間近で華やぐ火花は大迫力です。

とき 8月16日(日)午後7時30分ごろ  
ところ 三嶋大社境内宝物館前広場

# 伝 統